

2021年度 第44回 全国JOCジュニアオリンピックカップ春季水泳競技大会水球 【戦評】

会場：千葉県国際総合水泳場

【2022/3/30】

この試合のプレー集計

C3位

千葉水球クラブ

1

0	—	3
0	—	3
1	—	3
0	—	2

11 松任中学校

PSO

審判： 木下 晃次
松本 朗

千葉水球クラブ	12	SH数	19	松任中学校
	3	速攻数	13	
	5	ST・SB	14	
	1	SH・P誘発アシスト	11	
	21%	GK阻止率	88%	
5	EX反則数	5		

ST・SB:ボール奪取・SH阻止

この試合までのチーム集計	Shoot	得点	P・EX	誘発PE	Sアシスト	Steal	速攻	コントラ	失点	GK阻止率
千葉水球クラブ	65	27	10	14	22	22	6	10	29	32.6%

(5試合計)

この試合までのチーム集計	Shoot	得点	P・EX	誘発PE	Sアシスト	Steal	速攻	コントラ	失点	GK阻止率
松任中学校	67	34	17	17	23	51	5	20	14	36.4%

(5試合計)

【試合の流れ】

得点力ではやや松任中が千葉水球を上回っているが、お互いに速攻を仕掛けるチームスタイルではない。松任中は、強いプレスDFから相手ボール奪取が攻撃の起点。千葉水球は、得点力不足を粘り強いDFで凌いで勝ち上がってきた。

1P

序盤は両チームともに慎重な試合運びだったが、千葉側の攻撃中ボール処理ミスで松任が確実に得点につなげて、連続3得点。松任側は千葉の力を見抜き、それまでの試合と違って、次々に速攻攻撃に出た。千葉側の前線選手は、ボールが手元に届いてから次のプレーを考えるように見え、すばやい判断ができず、松任のDF対応力に完全押された形となった。

2P

松任は千葉の攻撃を読み切れる状況になったことで、安定したDFからの速攻攻撃スタイル。このピリオドも千葉のミスをついて3点。試合のペースを千葉が取り戻すのは容易ではない状況となった。千葉は退水を奪うものの、ボール接点でのミスで得点に至る状況から遠く、ペースをつかめずに前半を終えた。

3P

劣勢の千葉は、右サイドからのセンターへのパスが通り、ようやく初得点。千葉の攻撃は守備を考えたためか、2人攻めが中心で、松任は余裕で3人DF体制でその攻撃を摘み、泳ぎで勝ることから安心して全員攻撃を仕掛けてこのピリオドも優位を保ち、点差を広げた。

4P

最終ピリオドでも流れは変わらず、松任側にもミスが出ても千葉はなかなか攻撃の糸口をつかめないままで、このピリオドも点差が広がった。

最終的には千葉水球1-11松任中と大差がついた3位決定戦となった。